

各位

会社名 株式会社アートフォースジャパン
 代表者名 代表取締役社長 山口 喜廣
 (コード番号 5072 TOKYO PRO Market)
 問合せ先 取締役経営統括本部長 持塚 隆
 (TEL 0557-45-1109)

第2四半期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2021年2月12日に公表いたしました2021年12月期第2四半期連結累計期間(2021年1月1日～2021年6月30日)の業績予想と、本日公表の実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2021年12月期第2四半期連結累計期間(2021年1月1日～2021年6月30日)の業績予測と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,145	百万円 22	百万円 18	百万円 7	円 銭 31.12
当期実績(B)	2,038	20	16	4	19.52
増減額(B-A)	△107	△2	△1	△2	
増減率(%)	△5.0	△10.2	△10.8	△37.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2020年12月期第2四半期)	2,204	39	35	23	95.43

2. 差異の理由

新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による業況が2021年1月以降、緩やかに回復へ向かうと想定しておりましたが、当社グループの中核事業である地盤改良事業が属する戸建て住宅建設業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の変異株ウイルス拡大と米国及び中国をはじめとする世界的な建築木材の需要増加による第3次ウッドショックが影響して住宅着工計画の遅れが生じております。また、その他事業の建設資材レンタル及びリースにおいて公共工事および民間工事の着工件数減少もあって、第2四半期連結累計期間の売上高は前回公表の予想から下回りました。

利益については、地盤改良事業および建築事業における工事原価削減は予定どおり概ね推移しておりますが、その他事業の建設資材レンタル及びリースにおける新規貸出資材導入に伴う経費増加の影響により、第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても前回公表の予想から下回りました。

今後の業績につきましては、引き続き受注件数および受注単価維持と工事原価ならび販管費削減による収益を確保する施策に注力してまいります。

なお、通期の連結業績予想につきましては、不確定要因を考慮して、2021年2月12日に公表いたしました連結業績予想の通期(2021年1月1日～2021年12月31日)を据え置くことといたしますが、今後、通期の連結業績予想の修正が必要となった際には速やかに開示いたします。